

2025年11月2日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒129番（旧213番）（SK姉）

『イエスよわが身を』

聖書⇒詩編73編23~26節（MM姉）

『あなたがわたしの右の手を取ってくださるので／
常にわたしは御もとにとどまることができる。
あなたは御計らいに従ってわたしを導き／
後には栄光のうちにわたしを取られるであろう。
地上であなたを愛していなければ／
天で誰がわたしを助けてくれようか。
わたしの肉もわたしの心も朽ちるであろうが／
神はとこしえにわたしの心の岩／
わたしに与えられた分。』

（祈り）

礼拝讃美歌⇒53番（旧102番）

『主よ君の他に』

聖書⇒ローマの信徒への手紙5章9~11節（KT姉）

『それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。敵であったときさえ、御子の死によって神と和解させていただいたのであれば、和解させていただいた今は、御子の命によって救われるのはなおさらです。それだけでなく、わたしたちの主イエス・キリストによって、わたしたちは神を誇りとしています。今やこのキリストを通して和解させていただいたからです。』

聖書⇒コリントの信徒への手紙二 5章 17~19 節

『だから、キリストと結ばれる人はだれでも、新しく創造された者なのです。古いものは過ぎ去り、新しいものが生じた。これらはすべて神から出ることであって、神は、キリストを通してわたしたちを御自分と和解させ、また、和解のために奉仕する任務をわたしたちにお授けになりました。つまり、神はキリストによって世を御自分と和解させ、人々の罪の責任を問うことなく、和解の言葉をわたしたちにゆだねられたのです。』

(祈り)

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22 章 19~20 節 (NH 兄)

『それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

聖書⇒ルカによる福音書 23 章 44~46 節

『既に昼の十二時ごろであった。全地は暗くなり、それが三時まで続いた。太陽は光を失っていた。神殿の垂れ幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊を御手にゆだねます。」こう言って息を引き取られた。』

聖書⇒ルカによる福音書 24 章 1~6 節

『そして、週の初めの日の明け方早く、準備しておいた香料を持って墓に行った。見ると、石が墓のわきに転がしてあり、中に入っても、主イエスの遺体が見当たらなかった。そのため途方に暮れていると、輝く衣を着た二人の人がそばに現れた。婦人たちが恐れて地に顔を伏せると、二人は言った。「なぜ、生きておられる方を死者の中に捜すのか。あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。』

礼拝讃美歌⇒144 番 (旧 59 番)

『憂きこと四方に』

(式)

礼拝讃美歌⇒146 番 (旧 61 番)

『子羊の血にて』

《建徳》

聖書⇒ヨハネによる福音書 1 章 13 節 (SK 兄)

『この人々は、血によってではなく、肉の欲によってではなく、人の欲によってでもなく、神によって生まれたのである。』

聖書⇒ヨハネによる福音書 5 章 24 節

『はっきり言うておく。わたしの言葉を聞いて、わたしをお遣わしになった方を信じる者は、永遠の命を得、また、裁かれることなく、死から命へと移っている。』

聖書⇒マタイによる福音書 17 章 1~3 節

『六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。』

聖書⇒ルカによる福音書 8 章 1~3 節 (ES 姉)

『すぐその後、イエスは神の国を宣べ伝え、その福音を告げ知らせながら、町や村を巡って旅を続けられた。十二人も一緒だった。悪霊を追い出して病気をいやしていただいた何人かの婦人たち、すなわち、七つの悪霊を追い出していただいたマグダラの女と呼ばれるマリア、ヘロデの家令クザの妻ヨハナ、それにスサンナ、そのほか多くの婦人たちも一緒であった。彼女たちは、自分の持ち物を出し合って、一行に奉仕していた。』

聖書⇒ルカによる福音書 7 章 36~39、47 節

『さて、あるファリサイ派の人が、一緒に食事をしてほしいと願ったので、イエスはその家に入って食事の席に着かれた。この町に一人の罪深い女がいた。イエスがファリサイ派の人の家に入って食事の席に着いておられるのを知り、香油の入った石膏の壺を持って来て、後ろからイエスの足もとに近寄り、泣きながらその足を涙でぬらし始め、自分の髪の毛でぬぐい、イエスの足に接吻して香油を塗った。イエスを招待したファリサイ派の人はこれを見て、「この人がもし預言者なら、自分に触れている女がだれで、どんな人か分かるはずだ。罪深い女なのに」と思った。

だから、言っておく。この人が多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさと分かる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。』』

聖書⇒コリントの信徒への手紙一 15 章 3~6a 節

『最も大切なこととしてわたしがあなたがたに伝えたのは、わたしも受けたものです。すなわち、キリストが、聖書に書いてあるとおりのわたしたちの罪のために死んだこと、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりの三日目に復活したこと、ケファに現れ、その後十二人に現れたことです。次いで、五百人以上もの兄弟たちに同時に現れました。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 16 章 6 節

『あなたがたのために非常に苦勞したマリアによろしく。』

礼拝讃美歌⇒395 番（旧 252 番）

『慈しみ深き』

《建徳要旨》